

A-2

日中コントロール現象における意味の役割

阿久澤弘陽¹(聖学院大学) 王丹丹²(電子科技大学)

1 はじめに

- ある述語が、補部にイベントを選択した場合に、補部の主語の解釈が主文の主語の解釈と完全一致(または部分一致)する場合があります、これは伝統的にコントロール現象と呼ばれる³。
- コントロール現象には補部の定形・非定形という区別が密接に関わっている((1)-(3))。

(1) a. John_i tried [$\Delta_{i/*j}$ to solve the problem]. (非定形/コントロール)

b. John_i imagined that [he_{i/j} solved the problem]. (定形/非コントロール)

(2) a. ケン_i は [$\Delta_{i/*j}$ 論文を書き] 直した。 (非定形/コントロール)

b. ケン_i は [$\Delta_{i/j}$ 試合に勝つこと] を願っている。 (定形/非コントロール)

(3) a. Zhangsan_i kaishi [$\Delta_{i/*j}$ xuexi youyong]. (非定形/コントロール)

張三 始める 学ぶ 水泳

b. Zhangsan_i shuo [$\Delta_{i/j}$ lai le]. (定形/非コントロール)

張三 言う 来る PERF

((3ab)、Huang 1989: 188-189、一部改変)⁴

- すでに多くの研究で指摘されているように、日中語では主語が出現可能な定形補部にもコントロール現象が見られる(王 2010; 竹沢 2016; Hasegawa 1984/85; Uchibori 2000 等)⁵。

(4) a. ケン_i は [$\Delta_{i/*j}$ /自分_{i/*j} が大学院に進学すること] を決心した。

b. ヨシコ_i はカオリ_j に [$\Delta_{*i/j/*k}$ /彼女_{*i/j/*k} が反省文を提出するように] 命じた。

(5) a. Zhangsan_i dasuan [$\Delta_{i/*j}$ /ziji_{i/*j} ye canjia bisai].

張三 つもりだ 自分 も 参加する ゲーム

b. Zhangsan_i quan Lisi_j [$\Delta_{*i/j/*k}$ /ziji_{*i/j/*k} ye mai yiben].

張三 勧める 李四 自分 も 買う 一冊

- イベント名詞句補部でもコントロール現象が観察される。

(6) ケン_i は [$\Delta_{i/*j}$ 転職] を試みた。

[目的]

- 定形節補部やイベント名詞句補部でのコントロールと非コントロールの対立が何に起因するかを明らかにする。

¹ k_akuzawa@seigakuin-univ.ac.jp

² wangdandan@uestc.edu.cn

³ 本発表では、コントロール現象が観察される場合の述語をコントロール述語と呼ぶ。

⁴ Li (1985, 1990)、湯 (2000) も定形・非定形の区別がコントロールにとって重要であると論じている。

⁵ (顕在的主格)主語の出現は節の定形性を示している (Takezawa 1987)。

[主張]

- ・ コントロールと非コントロールの対立を決めるのは、コントロール述語の意味的特徴である (内在的コントロール述語)。
- ・ コントロール述語は、補部に「行為/経験主体に関わる事柄(de se 態度)」かつ「行為/経験主体が意図を持ってその成否に関わる事柄(責任関係 RESP)」を要求する述語であり、その意味的特徴によりコントロール現象を引き起こす。

2 先行研究と未解決の問題

- ・ コントロールは、補文述語の時制形態と関与しているという指摘が多くなされてきた(藤井 2016; Fujii 2006; Nakau 1973; Sakaguchi 1990; Uchibori 2000 等)。例えば、藤井 (2016)・Fujii (2006)では、(7)のような例に基づき、概略(8)のような主張がなされている。

(7) a. ケン_iは[$\Delta_{i/*j}$ カオりに真実を伝え{る/*た}こと]を決心した。

b. ケン_iは[$\Delta_{i/*j}$ カオりに真実を伝え{*る/た}こと]を後悔した。

c. ケン_iは[Δ_{ij} カオりに真実を伝え{る/た}こと]を覚えている。

(8) ある文にコントロール現象が観察されるならば、補文述語はルとタで交替しない。

- ・ 補文述語の時制形態とコントロール現象の関係には未だ不明な点が多い。

① 補文述語がルとタで交替可能だが、コントロール述語である(=(9))。

後悔する、反省する、自白する、自覚する、カミングアウトする、等

② 補文述語がル形で固定されているが、非コントロール述語である(=(10))。

予告する、予知する、望む、祈る、拒否する、期待する、決める、等

③ そもそもイベント名詞句補部には時制形態は存在しないが、節の場合と同様にコントロール・非コントロールという対立が見られる(=(11))。

(9) a. ケン_iは[$\Delta_{i/*j}$ 大学院に進学したこと]を後悔した。

b. ケン_iは[$\Delta_{i/*j}$ 警察官であること]を後悔している。

(10) 委員会_iは報道陣に[Δ_{ij} 映像を公開すること]を予告した。

(11) a. ケン_iは[$\Delta_{i/*j}$ 転職]を決心した。

b. ケン_iは[Δ_{ij} 転職]を願っている。

- ・ 中国語も、補部の時制的特徴がコントロールに関与しているとされる。例えば、王 (2010) は、定形コントロール補文の時制的特徴は、依存時制であると論じている。

(12) a. Zhangsan_ixianzai zhunbei [$\Delta_{i/*j}$ mingtian canjia bisai]. (依存時制/コントロール)

張三 今 準備する 明日 参加する ゲーム

b. Zhangsan_ijintian shuo [Δ_{ij} zuotian/mingtian canjia (le) bisai]. (独立時制/非コントロール)

張三 今日 言う 昨日/明日 参加する PERF ゲーム

- ・ 依存時制を用いた分析も、コントロール・非コントロールの対立を網羅的には説明できない。

(13) Zhangsan qiwang [erzi neng kaoshang zhubodaxue]. (依存時制/非コントロール)
張三 期待する 息子 できる 進学する 筑波大学

3 コントロール現象と述語の意味

3.1 コントロール現象を生む二つの要因

- ・ Stiebels (2007) は、コントロールは**構造的コントロール**(structural control)と**内在的コントロール**(inherent control)の二種類に分けられると主張している(Stiebels 2007: 2)。

→ **構造的コントロール**：補部構造が項の一致を要求することでコントロール現象を引き起こす(ex. ドイツ語の hoffen(hope)=(14))。

内在的コントロール：補部構造とは関係なく述語の意味によってコントロール現象が引き起こされる(ex. ドイツ語の ermutigen(encourage)=(15))⁶。

(14) a. Maria_ihofft, [$\Delta_{i/*j}$ im Lotto zugewinnen].

Mary hopes in.the lottery to win.INF ‘Mary hopes to win in the lottery’

b. Maria hofft, [daß ihr Sohn im Lotto gewinnt].

Mary hopes that her son in.the lottery wins ‘Mary hopes that her son will win in the lottery’

(15) a. Maria_iermutigt ihren Sohn_j [$\Delta_{*i/j/*k}$ am Rennen teilzunehmen].

Mary encourages her son at.the race participate.INF

b.??Maria_i ermutigt ihren Sohn_j (da-zu) [daß er_{j/*k} am Rennen teilnimmt]

Mary encourages her son there-to that he at.the race participates

‘Mary encourages her son to participate in the race’

(Stiebels 2007: 13-14)

3.2 日中コントロール現象と述語の意味

- ・ 日中のコントロール述語には以下のようなものが認められる⁷。

→Stiebels (2007) の**内在的コントロール述語**に当たる。

(16) a. [アスペクト]⁸ (日) 始める、続ける、終わる、やめる、等

b. [含意] (日) 忘れる、成功する、失敗する、試みる、自粛する、等
(中) wangji(忘れる), changshi(試みる), 等

c. [指示/操作] (日) 命じる、命令する、勧める、求める、等
(中) mingling(命令する), quan(勧める), yaoqiu(求める), 等

d. [その他] (日) 後悔する、反省する、決心する、つもりだ、気だ、等
(中) houhui(後悔する), juexin(決心する), dasuan(つもりだ), xiangfa(気だ), 等

⁶ Stiebels (2007) は、内在的コントロールに関与する意味は、局面(phasal)、含意(implicative)、指示/操作(directive/manipulative)といったものが多いことを観察している。

⁷ コントロール・非コントロール述語に関する詳細な分類は Uchibori (2000) も参照。

⁸ 中国語では、アスペクトの意味を表す述語で定形補部を選択するものはない。

4 提案

4.1 意味的分析⁹

- PRO 等を介して統語的に先行詞と補部の主語が同定されるのではなく、述語の意味から必然的に先行詞と補部の主語の解釈が一致することで、コントロール解釈が生まれる(=(17))。

(17) a. $\lambda x\lambda P. V'(x)(P)$

b. $\forall x\forall P. V'(x)(P) \rightarrow P(x)$ (V' : コントロール述語)

- 例えば、英語のコントロール述語 try が、補部に、統語上/意味上の主語が存在しない the new ski technique のような名詞句を選択した場合でも、新技術を使ってスキーを行うのが try の行為主体であることは明らかである(=(18))。

→ 日中語のコントロール述語でも同様の事実が得られる(=(19)/(20))。

(18) John tried [the new ski technique] ¹⁰.

(19) a. シェフは[新しい料理法]を試みた。

b. オーナーはシェフに[新しい料理法]を勧めた。

(20) a. Chushi changshi le [xinde zuocai fangfa].

シェフ 試みる PERF 新しい料理法

b. Laoban gei chushi tuijian le [xinde zuocai fangfa].

オーナー DATシェフ 勧める PERF 新しい料理法

4.2 内在的コントロール述語の意味的特徴

[de se 態度]

- コントロール述語は、その行為/経験主体が、補部の事柄が他ならぬ自分に関わることでであると捉えている。一方、非コントロール述語は、行為/経験主体が補部の事柄が必ずしも自分に関与していることとは捉えていない。
- コントロール述語は補部主語にいわゆる de se 解釈を要求する(Higginbotham 1992)。

(21) [ケン は 名前を伏せられたリストから退職者を決めることになり、一人を選んだが、その退職者が自分自身であることを知らないという状況で]

a. *ケン は [退職すること] を決心した。

b. *Zhangsan juexin [cizhi].

張三 決心 退職

- コントロール述語の補部は先行詞（行為/経験主体）自身に関わる事柄でなくてはならない。

→ しかし、単に、行為/経験主体が補部の事柄が自分に関するだけであり、(22) が容認しにくいことが説明できない。

⁹ 窪田悠介氏に分析の示唆を受けている。

¹⁰ Robert Levine 氏(個人談話)による例文。

(22) a. ??ケン[父親似であること]を後悔している。

b. ??Zhangsan houhui [xiang fuqin].

張三 後悔する 父親似

[責任関係(RESP(onsibility) relation)]

- ・ コントロール述語の補部の事柄の成否は、その述語の行為/経験主体の何らかの意図的行為と因果関係にある。
- ・ Farkas (1988) は責任関係(RESP(onsibility) relation)という概念がコントローラーの選択に関与していると主張している。

(23) 責任関係 RESP(i, s)は、個体 i (individual) と状況 s (situation) の間で、i が s を引き起こした場合にのみ、つまり、s が、s を意図的に引き起こすという意図を持った i によって遂行された行為の結果である場合にのみ成立する(Farkas 1988: 36)。

→ コントロール述語は責任関係を要求する(RESP-inducing)述語であり、コントローラーになるのは、s の成否に対し責任を負っている i である。したがって、コントロール述語の補部に制御不可能な事柄はこない。

(24) a. John knows that his subordinates have blue eyes.

b. #Mary convinced John to be blue eyed.

(Farkas 1988: 42)

- ・ 日中語の内在的コントロール述語は、責任関係を要求する述語である(=(25)/(26))¹¹。

(25) a. ??ケン[父親似であること]を後悔している。(=(22a))

b. ??ケン[隣人に騒がれること]を試みた。

(26) a. ??Zhangsan houhui [xiang fuqin]. (=(22b))

張三 後悔する 父親似

b. ??Zhangsan shitu [bei linju darao].

張三 試みる によって 隣人 邪魔する

- ・ コントロール述語の補部は先行詞（行為/経験主体）がその成否に対して責任を負える事柄でなくてはならない。

5 まとめ

- ・ 日中語の定形節、イベント名詞句補部で見られるコントロール現象は、補部の時制的特徴ではなく、コントロール述語の意味的特徴によるものである。
→ こうしたコントロール述語は、内在的コントロール述語(Stiebels 2007)である。
- ・ 内在的コントロール述語は補部の事柄が以下の(27)であることを要求する意味的特徴を持つ述語で

¹¹ Gamerschlag (2007) は、韓国語の内在的コントロール述語も責任関係で説明可能であると論じている(Gamerschlag 2007: 111-112)。

ある。

- (27) a. 述語の行為/経験主体自身に関わる事柄である(de se 解釈を要求)。
b. 述語の行為/経験主体が意図を持って、未来または過去において、その成否に関われる事柄である(責任関係を要求)。

参考文献

- 竹沢幸一 (2016) 「日本語モーダル述語文の統語構造と時制辞の統語的役割」『日英対照 文法と語彙への統合的アプローチ —生成文法・認知言語学と日本語学—』藤田耕司・西村義樹(編), pp. 56-77, 開拓社.
- 藤井友比呂 (2016) 「複文の構造と埋め込み補文の分類」村杉恵子・斎藤衛・宮本陽一・瀧田健介(編)『日本語文法ハンドブック 言語理論と言語獲得の観点から』pp. 2-37, 開拓社.
- 王丹丹 (2010) 汉语中的两种控制从句, 《语言科学》第9卷第6期, pp. 561-571.
- 汤廷池 (2000) 汉语的“限定从句”与“非限定从句”, 《语言暨语言学》第1期, pp.191-214.
- Farkas, Donka (1988) On obligatory control. *Linguistics and Philosophy* 11. pp. 27-58.
- Fujii, Tomohiro (2006) Some Theoretical Issues in Japanese Control. Ph.D. dissertation, University of Maryland.
- Gamerschlag, Thomas (2007) Semantic and structural aspects of complement control in Korean. *ZAS Papers in Linguistics* 47. pp. 81-123.
- Hasegawa, Nobuko (1984-85) On the so-called 'zero pronouns' in Japanese. *The Linguistic Review* 4. pp. 289-341.
- Higginbotham, James (1992) Reference and control. In Richard Larson, Sabine Iatridou, Utpal Lahiri and James Higginbotham (eds.) *Control and Grammar*. pp. 79-108. Dordrecht: Kluwer.
- Huang, C. -T. James (1989) pro-drop in Chinese: A generalized control theory. In Osvaldo Jaeggli and Kenneth J. Safir (eds.) *The Null Subject Parameter*. pp. 185-214. Dordrecht: Kluwer.
- Nakau, Minoru (1973) *Sentential Complementation in Japanese*. Tokyo: Kaitakusha.
- Li, Y. -H. Audrey (1985) Abstract Case in Chinese. Ph.D. Dissertation. University of Southern California.
- Li, Y. -H. Audrey (1990) *Order and Constituency in Mandarin Chinese*. Dordrecht: Kluwer.
- Sakaguchi, Mari (1990) Control structures in Japanese. *Japanese and Korean Linguistics* 1. pp. 303-317.
- Stiebels, Barbara (2007) Towards a typology of complement control. *ZAS Papers in Linguistics* 47. pp. 1-80.
- Takezawa, Koichi (1987) A Configurational Approach to Case-marking in Japanese. Ph.D. dissertation, University of Washington.
- Uchibori, Asako (2000) The Syntax of Subjunctive Complements: Evidence from Japanese. Ph.D. dissertation, University of Connecticut.